

SNSやYoutube動画配信ツールを利用した競技の普及活動 (公益社団法人日本トライアスロン連合 (JTU))

活動類型⑤スポーツ関連のメディア媒体を活用したスポーツ実施者の獲得

取組概要

- 公益社団法人日本トライアスロン連合 (JTU) は「エリート競技者だけでなく、幅広い愛好者にトライアスロンを楽しんでもらう」ことを通じて、スポーツ未実施層のスポーツ実施を促している。
- 事務局内に動画の配信・制作用のスタジオを設置し、Youtubeにて動画配信するとともに、SNS (twitter、Facebook、Instagram) を利用し、室内でできるトレーニングなど身近にトライアスロンを楽しんでもらうための情報を提供。

取組の狙いとポイント

ウィズコロナにおける現状と課題

現在、ウィズコロナにおいてスポーツを実施する機会が限られており、トライアスロンに触れる機会も減少している。

ウィズコロナにおける健康増進に役立つ室内でできるトレーニングを紹介。

競技会場に行かずに気軽にトライアスロンを楽しむことができるコンテンツを提供することで、トライアスロンへの親しみ、実施意欲を向上。

健康推進につながるトレーニング動画配信

- Youtubeにおいて、ウィズコロナの健康推進を目的とした室内トレーニングから、トライアスリートに向けたメッセージ等、多岐にわたるカテゴリの動画の制作・配信、オンライン (ウェビナー等) を活用したセミナーやシンポジウムを積極的に実施。専用のスタジオで撮影・配信することにより、ワンランクアップした配信を行うことで視聴者 (会員等) の満足度を上げる。

トライアスロンを身近に感じられるコンテンツの提供

- また、大会をライブ配信することで、競技会場に行かなくてもエリートの大会をライブまたは好きな時間に視聴可能となり、観戦そのもののハードルを下げ、トライアスロンに親しみをもってもらおうことを目指している。
- SNSを通じて、大会エントリー開始のお知らせ、大会当日の速報、イベントの告知、選手からのメッセージ等を常にリアルタイムで発信し、トライアスロンの「今」を常に届けることで、競技をより身近に感じてもらっている。

取組効果

- SNSのフォロワー数は約10%増、Youtubeのチャンネル登録数には約50%増という効果が見られた (2020/12月末時点)。
- 第26回日本トライアスロン選手権 (2020/12/22時点で2.8万回視聴) をはじめとし、動画でトライアスロンを楽しむ人口が増加し、動画視聴者から「現地で応援に行けないけれど、WEBで配信してくれて嬉しい」「気軽に観戦できる」などの声を頂いた。

今後の展開、取組方針

- セミナー、講演会等のオンライン実施の拡大を目指す。
- 小学生、中学生等を対象に、オリンピック・パラリンピック選手がトライアスロン・パラトライアスロンの紹介や質問に答えるオンライン授業などを実施予定。

実施体制、運営状況等

- 事務局内に動画の配信・制作用の専用スタジオを設置し、動画配信やウェビナーを内製化。質の高いコンテンツを提供することで、視聴者 (会員等) の満足度向上を図っている。(2020年から取組開始)

